

未来・ねりまニュース

目次

コラム「法人五周年を迎えて」
..... P 1

ねりま事業所だより..... P 2

ねりま第二事業所だより..... P 3

事務局だより..... P 4

支える会だより..... P 4

幼児教室とことこだより..... 中紙表

社会福祉法人 未来・ねりま
グループ図..... 中紙裏

発行所 社会福祉法人未来・ねりま
〒176-0013 東京都練馬区豊玉中 4-10-6
TEL 03-3948-0275 FAX 03-3948-5864
法人 E-mail honbu@mirai-nerima.or.jp
移行支援 E-mail ikou@mirai-nerima.or.jp
継続支援 E-mail keizoku-1@mirai-nerima.or.jp
ねりま第二 E-mail keizoku-2@mirai-nerima.or.jp
幼児教室 E-mail youji-1@mirai-nerima.or.jp
ホームページ <http://www.mirai-nerima.or.jp>

法人五周年を迎えて

理事長 眞保 真人

社会福祉法人未来・ねりまが誕生して、五周年を迎えようとしています。障害者の福祉の充実のために制定された障害者自立支援法により、従来の小規模作業所は、社会福祉法人またはNPO法人により運営されることが原則と定められました。これにより、今までは法律により守られることがなかった小規模作業所の利用者もそこに働く職員も、全国共通の水準により保障されることになりました。

練馬区からは、永年障害者の社会自立のために、親の会が運営していた作業所を、社会福祉法人化するために大きな支援をいただきました。それにより、極めて厳しい社会福祉法人設立の条件をクリアすることができました。五年の歳月を経て、大泉の第二事業所、幼児教室も、法人の傘下に加わり、事業規模も、支援の内容も充実してきていると思います。更に、来年十月には、高松地区に、第三事業所を開設する計画が、先日東京都から認可されました。この開設により、従来作業所がなかった地区へのサービスが、より充実するものと期待されます。ただ誠に残念な事に、社会福祉法人の設立に貢献し、練馬区の知的障害者の働く場の確保に尽力していた菅野所長が去る五月二十八日に亡くなられました。菅野所長は、誰よりも高松第三事業所の開設を心待ちにしていました。私達は菅野所長の偉業を継承しつつ更なる発展に努めなければならないと思います。

ねりま事業所長 齋藤 洋

早いもので、社会福祉法人未来・ねりまは平成十九年設立後、本年で五周年になります。この間にねりま第二事業所、幼児教室「ことこ」を法人事業とし、平成二十五年十月には光が丘高松地区に(仮称)ねりま高松事業所/ねりま高松グループホームが開設され、練馬区内を網羅した四事業所体制になります。これも一重に親の会会長やねりま事業所長を長年努められた故菅野縮子前所長の積み上げた実績の下に、練馬区など関係機関、親の会など関係団体の支援の賜物と感謝しています。

法人五周年の節目を契機に、事業基盤の整備を図り、利用者中心のより良い障害福祉サービスの提供を行うべく、職員と共に、十周年に向かつて更なる成長を遂げて行きたいと考えています。

ねりま第二事業所長 木村 智恵子

ねりま第二福祉作業所時代から、三十余年一緒に頑張ってきた菅野所長が、五月二十八日に亡くなり、心にポカッと穴があった様な気持ちです。菅野所長は、いつも知的障害者も、練馬に生まれ、練馬で死んでいける様な世の中にと願って、自分の事は省みず、利用生達のために頑張っていた事を思い出されます。法人化され、ねりま第二事業所となつてからも何かと心配して頂き、本当に感謝しておりました。現在は若い職員達が、力を合わせて、地域の一員として、利用生達がいきいきと生活をしていける様にと、一生懸命がんばってくれています。

ねりま事業所だより

就労移行支援事業

平成24年4月、就労移行に4名の方が加わりました（広瀬 雄大さん・谷 晃輝さん・渋谷 進一さん・猪越 俊之さん）。作業や昼食の準備・片付け等、皆で協力しながら日々活動しています。



6月に開催された練馬区内合同運動会では、ねりま事業所代表として浅見 明子さんが、始めの挨拶を行いました。何回も練習を重ねて、本番では大成功を収めることができました。競技、応援共に皆さん一人一人が一生懸命になっていました。

平成24年4月、海老原 知恵さんの就労先が決まり、5月14日から仕事がスタートしました。（板橋区内の会社）

週5回出勤し、現場担当の方と一緒に風呂場の清掃、構内ゴミ回収、洗濯物整理等を行っています。一生懸命頑張っていて、今では一人でやる（出来る）仕事も増えてきています。



就労継続(B型)支援事業

平成24年4月、就労継続支援に須藤 照夫さんが新しい仲間として加わりました。仕事も受注作業、清掃作業、喫茶と皆で日々忙しく活動しています。また、仕事だけでなく、スポーツに余暇外出などのレクリエーションにも楽しく取り組んでいます。これからもねりま事業所の特色を大切にしながら、皆で頑張っていきたいと思います。



5・6月はスポーツの行事が一杯ありました。5月はスポーツ大会。一人ひとり、自分の競技を一所懸命に頑張りました！

行事予定

- 8月 納涼福祉盆踊り
夏休み
- 9月 スポーツの集い
- 10月 宿泊訓練
- 12月 障害者フェスティバル
年末仕事納め
- 1月 年始仕事始め
- 3月 福祉マラソン大会

スポーツ大会の後は、施設合同運動会に参加しました。みんなで力を合わせて、赤組の優勝に貢献出来ました！



ねりま第二事業所だより

未来 ねりまと私

ねりま第二事業所 相原孝授

練馬手をつなぐ親の会が運営主体だった福祉作業所時代より、現在の法人運営の中にある第二事業所への転換期を経験して…。

小規模作業所だった頃は、幅広い利用者の受け入れと活動内容に懐の広さを感じられました。

そして現在の法人になったことで、今まで親の会ではできなかった事業拡大が夢から現実へ叫びつつあると実感しています。しかしその反面、法人になったがための運営上に縛りが出てきたのも確かだと思えます。

これから我々が歩んでいく道は、法人理念にも掲げているように、困ったところに手が届き、地域に根差し、未来、ねりまだからこそおこない得る障害福祉サービスの隙間を狙う拠点となる法人運営を目指していくべきだと考えています。私はその信念に基づいて、今後も一法人職員として努力していきたいと考えています。

新人さんの紹介

ねりま第二事業所は利用者3名が加わり、ますます賑やかになりました。

ここでは新しい仲間を紹介します。

ちばとおる
千葉 徹

僕は計算が得意です。
乗り物の中で、バス・電車が大好きです。
テレビは、スポーツ関係が好きです。



4月から一緒に働かせて頂いて

いる川島沙弥

♪嵐♪が大好きな18歳、お給料でDVDが買えるようにコツコツと貯めています。
いつも楽しく仕事しています。これからもどうぞよろしくをお願いします。

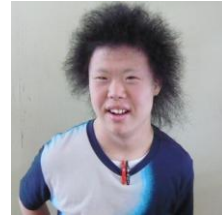


のざわひろき

野澤大樹

生まれの18歳です。
アニメ・ドラゴンボールZの魔人ブウが好きです。

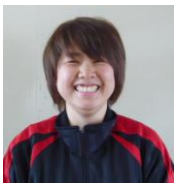
好きな食べ物
はフライドポテトです。
仕事はやるだけやってみようと思っています。



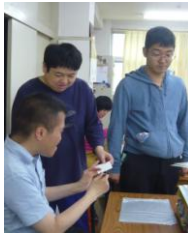
クラブ活動の紹介

ねりま第二事業所では作業以外にクラブ活動も行っており、それぞれ希望するクラブに入って活躍しています。今回は、新聞クラブの紹介です。

新聞クラブは、利用者10名、職員1名で活動しています。新聞クラブで作上げた新聞は2か月に1回程、保護者や利用者向けに発行しております。内容は行事の報告や、普段の活動の様子等で、取材から写真撮影も部員が積極的に行って作り上げています。



担当支援員
きむら なお
木村直生



取材中…



パソコンに入力



記事を書くのも真剣！



カメラマンもこなします

完成！

遂に発行です！



職員の豆知識

3月にねりま事業所から異動してきた小山知子です。同じ法人でも事業所の個性は異なるので、それぞれの良さを伸ばし合って交流していけるよう力になれたらと思っています。
利用者のみなさんと笑顔で過ごしていきたいです。



9月8日(土)
第2回ねりま第二事業所
収穫祭(施設公開)
を開催予定です！

●平成23年度事業活動概要報告

1. 本部事務局

- (1) 相談支援事業に対する業務推進——ねりま相談支援事業所は東京都の指定を受けて6月1日に開所しました。事業所保護者・親の会員への相談支援事前相談を実施しました。来年度の相談支援見直しについて準備を行う。
- (2) 練馬区立大泉障害者地域生活支援センターとの業務推進——練馬区立大泉障害者地域生活支援センターと10月24日には成年後見制度に関する講演会を共催、家族支援も含めた相談支援で連携して、解決を図りました。
- (3) グループホーム(GH)・ケアホーム(CH)事業計画の推進
(仮称)ねりま高松事業所/ねりま高松グループホームは、周辺住民への説明会を2度行い、大きな反対もなく7月に東京都へ事業計画を提出、9月に東京都係官が現地を確認し、12月上旬に国庫協議書を提出しました。
- (4) 幼児教室「とことこ」児童福祉法の児童発達支援事業への移行対応策
東京都、練馬区への要請行動の結果、新法への移行が1年延期、新体制の移行シミュレーションを行いました。

2. ねりま事業所

2-1 就労移行支援事業

- (1) 年度始めは利用者11名(定員9名)で開始、5名が就労、中途から3名の方が入所、利用開始しました。
- (2) 個別支援計画の書式を変更し、年度支援計画を月単位で見られるようにし、支援の効果を上げました。
- (3) 池袋の喫茶店で延べ23名が実習を行い、就労定着支援ではOB会を発足して、利用者支援を図りました。

2-2 就労継続支援B型事業

- (1) 利用者35名でスタート、新規利用者3名が入所、1名が退所(死去)、年度末利用者総数は37名になりました。
- (2) 受注業務は横ばい状況で、受託業務はLP清掃や個人アパート清掃が増えて、工賃増額に結びついています。
- (3) 個別支援計画は利用者ニーズの把握と支援の充実に力を入れると共に、相談支援部門と連携をして、一人ひとりの支援目標にしっかりと取り組めるように実施して行くことを確認しました。

3. ねりま第二事業所 就労継続支援B型事業

- (1) 利用者主体を目的にした作業方法の見直しを行い、利用者の作業率が60%以上になるように支援しました。
- (2) 個別支援計画は、目標達成出来るようにケース会議を行い、記録を活かしモニタリング評価を行いました。
- (3) レクリエーションクラブ活動の充実では、4つの教室と4つのクラブ活動を月各1回行う余暇支援を行いました。
- (4) ねりま第二事業所施設公開は10月29日(土)に利用者主体で、近隣交流を兼ねた収穫祭として開催しました。
- (5) グループ活動でのグループホーム見学・体験活動は7月に第1回目、2、3月に第2回目の見学をしました。

4. 幼児教室「とことこ」事業

- (1) 来年度は練馬区心身障害児訓練事業補助金が終了しますので、新体制に向けて多面的な検討を開始しました。
- (2) 保育・療育に関して在室の子供や親達へ細やかな支援を続け、就園や就学に繋げ、卒室親の相談を行いました。
- (3) 卒室の保護者会、ママ達の会「ぼこあぼこ」が立ち上り、教室の応援組織として活動を開始しました。

支える会だより

○社会福祉法人未来・ねりまを支える会入会のご案内

<目的> (社福)未来・ねりまのねりま事業所、ねりま第二事業所、幼児教室の充実発展と利用者の支援に寄与すること。

<会 員> 利用者・保護者、役員・職員・お取引業者等の法人関係者、親の会会員等でどなたでも入会出来ます。

<年会費> 1口 2,000円ですが、希望口数としては、個人1口以上、団体・企業等5口以上でお願いしています。

<振替口座> 郵貯 00110-4-544768 社会福祉法人未来・ねりまを支える会(払込料金は会負担で手数料は無しです)

<お問い合わせ> 練馬区豊玉中 4-10-6(社福)未来・ねりま ねりま事業所内 TEL3948-0275 FAX3948-5864

支える会事務局(齋藤、江連)にご連絡下さい。入会申込書兼入会受付書及び会則をお送り致します。